



富山県

コンテナ栽培小粒イチジクの超早期成園化技術

富山県農林水産総合技術センター 園芸研究所 果樹研究センター

1. 背景とねらい

富山県において、近年、小粒イチジク‘コナドリア’は、司厨士会・洋菓子店等外食産業からのニーズが高く、水稻育苗ハウスとコンテナを利用したイチジク栽培を中心に生産者が増加しています。

しかし、コンテナ栽培では地植え栽培と比べて経済樹齢が短く、ショートサイクルでの樹体の更新が必須です。このため、生産現場でも行なえる簡易な苗木の挿し木増殖方法を明らかにし、さらに、早期に収量を確保するための、コンテナ栽培小粒イチジクに適した樹形育成技術を開発しました。

2. 成果の内容

コンテナ栽培小粒イチジクの超早期成園化技術とは、容量45リットルコンテナに挿し穂を2本挿し木し、1年目で樹形を確立し、2年目で収穫できる栽培技術です。なお、2年目の1コンテナ(2主枝)あたりの収量は、約2kg(成園時の約8割)です。

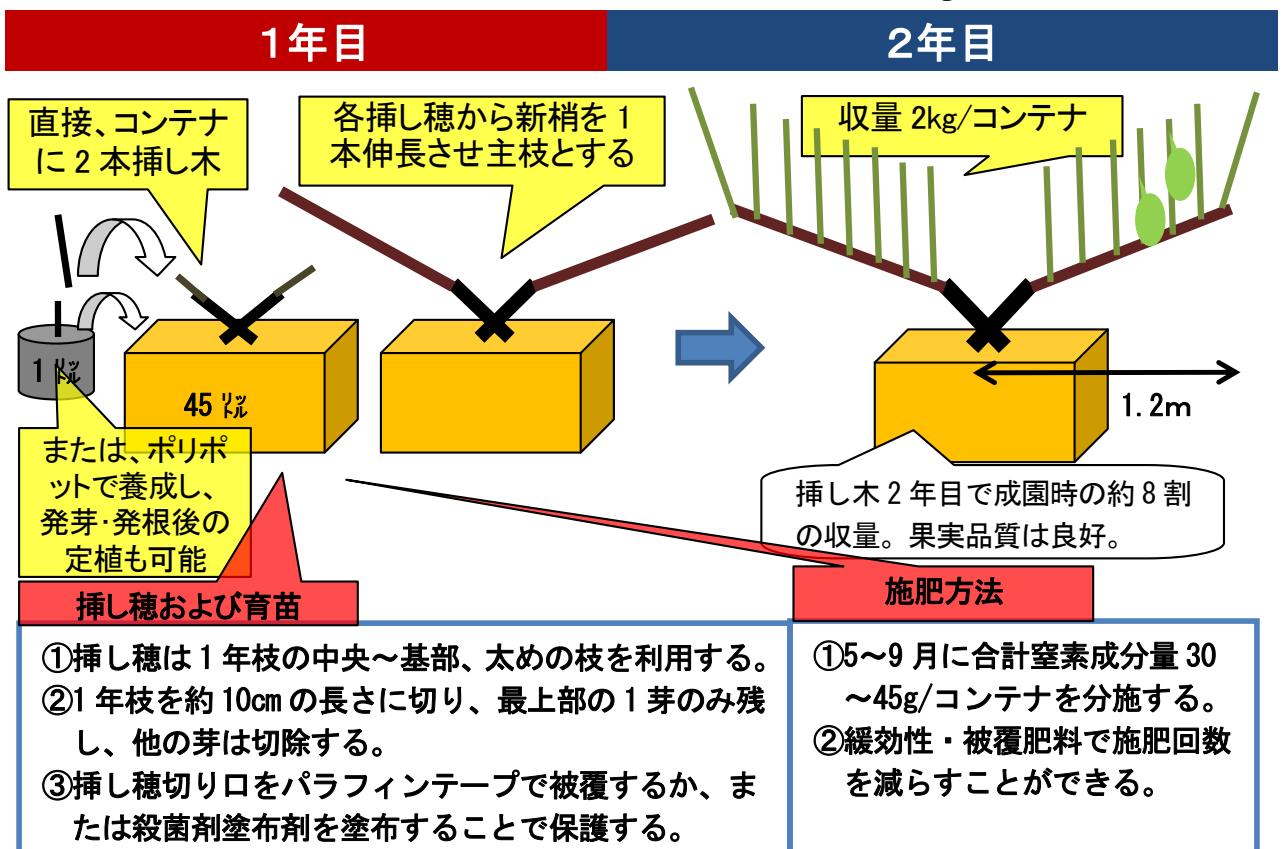


図1 コンテナ栽培‘コナドリア’の超早期成園化技術

表1 挿し木2年目の収量および果実品質

収量 (kg/コンテナ)	個数 (個/コンテナ)	平均果重 (g)	糖度 (Brix°)
2.0	50.0	40.0	17.6

*1コンテナ(2主枝)あたり



図2 挿し穂切り口の処理
左:パラフィンテープ
右:殺菌剤塗布剤

表2 切り口の処理と癒合程度

挿し穂切り口の処理	挿し穂切り口の癒合程度 ²
パラフィンテープ	2.5
殺菌剤塗布剤	2.4
無処理	1.9

²1悪,2中,3良の3段階評価。

3. 成果の活用

コンテナ栽培小粒イチジクの早期成園化技術として活用でき、苗木増殖やスムーズな樹体更新が行えることで、栽培面積拡大や安定生産にもつながります。